

筑豊小児科医会会報

Vol.234 2026.7



Contents

- ◇ トピックス
- ◇ 研修医のご紹介
- ◇ 飯塚病院 月間診療のまとめ《2026年4月》
- ◇ 小児科関連勉強会のご案内
- ◇ AI-CAP 通信
- ◇ Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

発行：飯塚病院小児センター（飯塚市芳雄町 3-83）
（代表）TEL：0948-22-3800

トピックス

飯塚病院小児虐待防止委員会委員長就任のご挨拶

小児科 医長代理 大武 瑞樹

この度、飯塚病院小児虐待防止委員会(通称：AI-CAP)委員長を拝命いたしました、大武瑞樹と申します。子どもたちの健やかな成長を守るという重責を担い、身の引き締まる思いです。

現在、全国的に児童虐待の相談対応件数は増加傾向にあります。この筑豊地域も例外ではなく、事態は深刻です。核家族化による孤立や経済的困窮など、家庭を取り巻く環境は複雑化しており、身体的虐待のみならず、ネグレクトや心理的虐待といった目に見えにくいSOSをいかに早期に捉えるかが喫緊の課題です。子どもたちのサインを見逃さぬよう、AI-CAPとしては院内の教育体制を強化し、多職種連携に務めております。

また、虐待は発生してからの対応以上に、未然に防ぐことが何より重要です。そのためには、日頃から地域の子どもたちと最も近い距離で接しておられる近隣の先生方の存在が欠かせません。先生方が日々の診療のなかで感じられる「小さな違和感」こそが、子どもたちを救う鍵となります。平素よりの多大なるご協力に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

子どもは地域の宝であり、未来そのものです。1つでも多くの笑顔を守るため、地域全体で子どもを見守るネットワークをより強固なものにしていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

研修医のご紹介

●初期研修医 1年目 あかぎ じゅん 赤木 純

初期研修医 1年目の赤木 純と申します。今春に鳥取大学を卒業し、4月から勤務させていただいております。祖父が久留米大学小児科に勤務していたこともあり、飯塚病院の小児科にはご縁を感じております。小児科での研修を通して、子どもたちやご家族に寄り添える医師になれるよう、一つひとつの経験を大切にしながら成長していきたいと思っております。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

●初期研修医 1年目 ぬのやま ともや 布山 智也

今春に福岡大学を卒業し、4月より飯塚病院で初期研修医として勤務させていただいております、1年目の布山智也と申します。筑豊地域の子ども達やご家族に寄り添った温かい医療が提供できるよう、精一杯努めてまいりたいと思っております。ご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

飯塚病院 月間診療のまとめ 《2026年4月》

- 入院患者数 111人 ●外来患者数 947人 ●救命救急センター受診者数 50人
- 新生児センター入院患者数 11人 ●分娩件数 42件 ●手術件数 2件
- 主要疾患数（退院患者数：93人）

肺炎・気管支炎	23	痙攣及びてんかん	11	低出生体重児	6
新生児呼吸障害・心血管障害	5	急性胃腸炎	4	喘息	3
急性上気道感染症	2	高ビリルビン血症及び黄疸	1	その他	38

●紹介件数（五十音順）

小児科：123件	
ひこばえ子どもクリニック	14
宮嶋医院	6
あらきこどもファミリークリニック	5
穎田病院	
こどもクリニックもりた	
坂本医院	
ささきこどもクリニック	
西園内科クリニック	4
田川市役所子育て支援課こども家庭センター	

小児外科：7件	
ひこばえ子どもクリニック	2
有松産科婦人科ユースクリニック	1
飯塚市役所 こども家庭課	
大野小児科内科	
順天堂大学医学部附属 浦安病院	
吉國医院	

小児科関連勉強会のご案内

- 第49回 筑豊感染症懇話会（第375回 筑豊小児科医会勉強会）
 - 日 程：2026年7月23日（木）
 - 会 場：飯塚病院 北棟4階 多目的ホール（ハイブリッド開催）
 - 世話人会：時間 18:30～
 - 講演会：時間 18:50～20:00
- 特別講演 久留米大学医学部 感染制御学講座 講師 後藤 憲志 先生
- 『(仮) 変わりゆく予防接種の景色』
- * 詳細は案内状をご確認ください
- 8月の筑豊小児科医会勉強会は、規程により休会いたします。



映画「マイケル」を観ました。作品の中では、世界的スターであるマイケル・ジャクソンの輝かしい成功だけでなく、その背景にあった苦悩も描かれていました。特に印象に残ったのは、幼少期の父親との関わりでした。

9人きょうだいの7番目に生まれたマイケルの家庭は貧しく、父ジョセフは子どもたちでバンドを組み、その環境から抜け出そうとします。練習は厳しく、大リーグボール養成ギブスをつけさせた星一徹のよう。クラブでの演奏の帰り、床に就こうとしている疲れた子どもたちにも練習を強い、口答えをしたマイケルのお尻を皮のベルトで鞭のように何度も何度も叩くのでした。外で遊ぶ近所の子どもたちを窓から眺めるマイケル。メジャーデビューを果たした兄弟バンド“ジャクソン 5”は瞬く間に全米チャートを駆け上がり、マイケルは時の人となり、公私の境なく働き続けました。ステージ上の華やかな姿とは裏腹に自由を許されず、ジョセフに行動を縛りつけられる日々。友だちを作ろうにも時間はありませんし、たとえあっても同世代の子どもたちはマイケルを、心を持った「子ども」としては関わってくれませんでした。

心を許せる友のいない彼はやがて映画やディズニーなど物語の世界と動物に傾倒し、徐々に周囲から孤立してしまいます。しかし彼は常に純粹で、人間同士の争いや戦争、子どもたちの苦境に心を痛め、壊れつつある社会や人の心を癒すべく音楽を作り、ステージ上で歌い、踊り続けました。映画の中で彼が光り輝けば輝くほど、子ども時代のことや未来に待つ法廷闘争のことが思い出され、涙が止まりませんでした（長期間の捜査や裁判の結果、マイケルの無罪が確定しています）。

イギリスの精神分析家で小児科医のD.W.ウィニコットは「遊ぶことにおいてのみ、子どもでも大人でも、個人は創造的になることができ、パーソナリティ全体を使うことができる」と言い、子どもにとって「遊び」とは、子どもが自己を発見し、現実と内的世界を結びつけるための普遍的で極めて重要な営みであると述べました。マイケルはアイドルとしての自分をいつまでも追い続け、完璧でなければならない強迫と常に戦い、孤独に耐え続けた人なのかもしれません。

子どもは子どものうちに、子どもとしてたくさん遊ばなければなりません。そのためには、いつでも帰れる安心で安全な存在が必要です。作品中、ボディガード“ビル・ブレイ”が登場しますが、マイケルを常に守り、肯定し続け、傍にいてくれる、まさしく安全基地のような人でした。よかった。

映画「マイケル」ぜひご覧ください。

文責：AI-CAP 大矢 崇志

Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

梅雨入りした週末、佐賀市のシアター・シエマに足を運んで、『アメリと雨の物語』というアニメ作品を観に行きました。時間があったので同じ日にかかっていた『私たちの話し方』という香港映画を観たのですが、最高の青春映画だったのでご紹介します。

20代のソフィー。彼女は3歳の時に聴覚を失い、人工内耳を装用することで「聞こえる人」として、“普通”の生活を送ろうとしている。一方、ジーソンは生まれながらの聾（ろう）者として、手話話者であることに誇りを持って生きている。アランは人工内耳装用者で、手話と口話のバイリンガルだ。手話禁止で口話教育を推進する聾学校で出会ったジーソンとアランは、お互いの環境の違いを認識しながらも、親友のまま大人になった。やがて、人工内耳を推奨するアンバサダーとしてアランとソフィーが出会うが、人工内耳の推進イベントでソフィーが語った「科学が発展すれば、この世から聾者はいなくなる」という言葉にジーソンが激怒してしまう。

ソフィーは人工内耳を装用することで、聴者として育ち、学校に通い、就職をします。しかし、自分が「障がい者」として雇われたと感じる出来事が起き、人工内耳の不調で言葉を聞き取りづらくなったことで、自分の存在意義を見失ってしまいます。そんな彼女が聴こえ方や話し方が違うアランやジーソンとの出会いをきっかけに、聾者のコミュニティに参加し手話を学ぶのですが、彼女の学びを通して手話は口話の代わりではなく、一つの言語だということを強く感じました。また、手話は手の動きだけでなく表情や身振りも交えて会話するので、事実だけでなく話者の気持ちや感情が生き生きと表現され、相手に伝わる情報量は口話よりも豊かだと感じました。手話を通して親密度が増していく3人の群像劇にときめき、話が進むにつれて、手話こそが自分の言葉だと実感するソフィーの手話の美しさにやられました。ていうか、ソフィー可愛い。

外来で出会う言葉を使わない子どもたちも、何か言いたいことや伝えたいことがあるのに、理解することができず、もどかしさを感じる場合があります。彼らの表現を理解し、彼らに合わせてコミュニケーションをとるべきなのに、彼らを大勢に合わせることしか考えられません。本来なら、手段はその子が選ぶべきで、強制すべきじゃないはずなのに……。色々な話し方の子どもたちとおしゃべりできるといいですね。

お知らせ

Pediatrics Note は note にも載せています

